

日本国際芸術祭 企画
Japan Annual - International Art Festival

一般社団法人夢洲新産業・都市創造機構

文化庁が移転し、歴史・芸術・文化の聖地京都で開かれる新しい日本国際芸術祭

アート・デザイン・サイエンス・テクノロジー・経済の共創が

クリエイティブをまちなかに創り出していきます

いのち輝く未来を拓く日本国際博覧会が開かれる2025年に向けて、

さらにその先の未来に向けて、日本から世界に発進していきましょう



日本国際芸術祭とは

- 2025年日本国際博覧会を契機に開催する新しい国際的な芸術祭。
- 万博までも万博後も、千年の都京都、文化庁がある文化首都京都で開催。
- アート・デザイン・サイエンス・テクノロジー・経済の共創。
- 2023年に第一回を開催しその後、2024年、2025年(京都と万博会場)、2026年、2027年と毎年継続していく予定。
- 2023年の開催期間は9月1日(金)～10月15日(日)、メイン会場を世界文化遺産醍醐寺に据え、京都市内・京都府内の画廊、工房、企業ショールーム、大学研究室、美術館、工場(オープンファクトリー)、寺社仏閣等を繋ぐ。
- 京都を中心に展開し、そこに大阪や全国が繋がっていく形を創り上げる。
- 本芸術祭は夢洲新産業・都市創造機構が本部になり継続させる。

日本国際芸術祭のポイント

- 1 2025年日本国際博覧会やプロデューサーとの連携
- 2 京都府・京都市および文化庁のアート・文化政策との連携
- 3 万博を契機とした産学公の多様なプレイヤーとの連携
- 4 万博の公式参加国との連携
- 5 2023年 第一回イベントの開催

日本国際芸術祭のポイント 2023年 第一回イベントの開催

- 7万5千点を超える国宝を所蔵する
『世界文化遺産 京都 醍醐寺』をメイン会場にして
開催（京都市内の寺院で最大面積の200万坪の敷地）
- 開催期間は9月1日(金)～10月15日(日)。
- 市内・京都府内の画廊、工房、企業ショールーム、
大学研究室、工場(オープンファクトリー)、美術館、
寺社仏閣等を繋ぐ。
- 京都の企業・団体・大学等と連携し、開催する。



2023年 日本国際芸術祭 第一回イベントのコンセプト



2025年日本国際博覧会を契機に
歴史・芸術・文化の聖地京都で約1か月半開催する新しい国際的な芸術祭

2023年日本国際芸術祭 第一回イベントの展開イメージ

9月1日(金)～10月15日(日)

醍醐寺

日本国際博覧会
プロデューサー
企画

日本国際博覧会
プロデューサー
企画

日本国際博覧会
プロデューサー
企画

日本国際博覧会
プロデューサー
企画

日本国際博覧会
プロデューサー
企画

IPMと合わせた公式参加国 招待

1150年の歴史・文化が輝く世界文化遺産醍醐寺伽藍と自然・森林を活かした
Exhibition、デジタルインスタレーション、森の音楽会等

醍醐寺所蔵 国宝・文化財 特別公開（霊宝館-三宝院等）

京都府・京都市内

アート・伝統工芸・伝統文化・京都の先端技術
京都府市内・京都府内の工房・企業ショールーム、美術館・ギャラリー・大学等連携
※京都府市内以外の工房、ギャラリー、企業、大学、美術館等の連携も可

ターゲット：国内客はもとより、インバウンド（特に欧米の知的富裕層）も重視

メイン会場 世界文化遺産醍醐寺と京都市内のプログラムとの連携

メイン会場：醍醐寺内



① **醍醐寺**
通常拝観＋
特別公開・特別体験プログラム

② **ART・DESIGN SHOW**
屋内アートフェア、屋外デジタルアート展示・音楽演奏等

③ **森と自然のExhibition**
デジタルインスタレーション、
森の音楽会等

④ **2025年日本国際博覧会 プロデューサー企画**
万博プロデューサーによる“独自のアプローチでの表現”

京都府・京都市内の連携イベント

A **美術館・ギャラリー**

B **工房・企業ショールーム**

C **大学・研究機関**

D **博物館・資料館、
オープンファクトリー等**

全体プロデュース：一般社団法人夢洲新産業・都市創造機構

- ・ 上記①～④、A～Dの連携を促進：全体マップの作成、各実施概要・スケジュール等の情報をまとめたWebサイト構築。各プログラム間での情報連携・相互送客を働きかけ。
- （①～④、A～Dはそれぞれ独立したプログラムとして、各主体が運営。）



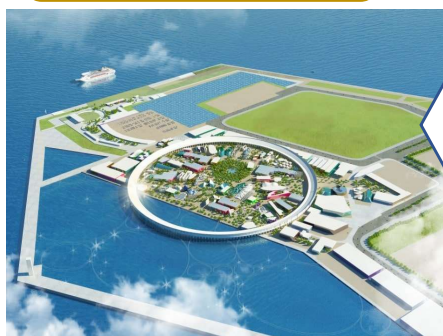
メイン会場世界文化遺産醍醐寺を通じてつながる“万博”と“京都と日本”

万博への関心層を
京都とつなぐ

- ・ International Planning Meeting（6月）
の機会を活かし、来訪国代表者を京都へ

文化庁が移転する京都から、
日本の歴史・文化・芸術・科
学が共創する多様なクリエイ
ティビティを世界に発信

万博会場



提供：2025年日本国際博覧会協会

EXPO2025

いのち輝く未来社会のデザイン

キーワードは「いのち」
響き合わせる、広げる、
高める、磨く、知る、
育む、つむぐ、守る

万博テーマ



※1

世界文化遺産醍醐寺



国宝・重文



自然・アート



※2

アートの「問い」
工芸の「創造」
京都企業の「DNA」
.....

※3



日本文化・アートへの
関心層を
万博とつなぐ

※1 写真出典：公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
ホームページ

※2 写真出典：醍醐寺ホームページ

※3 写真出典：TOKYO ART BEAT

- ・ 文化・アートに造詣・関心を持つ
- ・ 「知的富裕層」への万博関心喚起

メイン会場世界文化遺産醍醐寺を通じてつながる“万博”と“京都と日本”

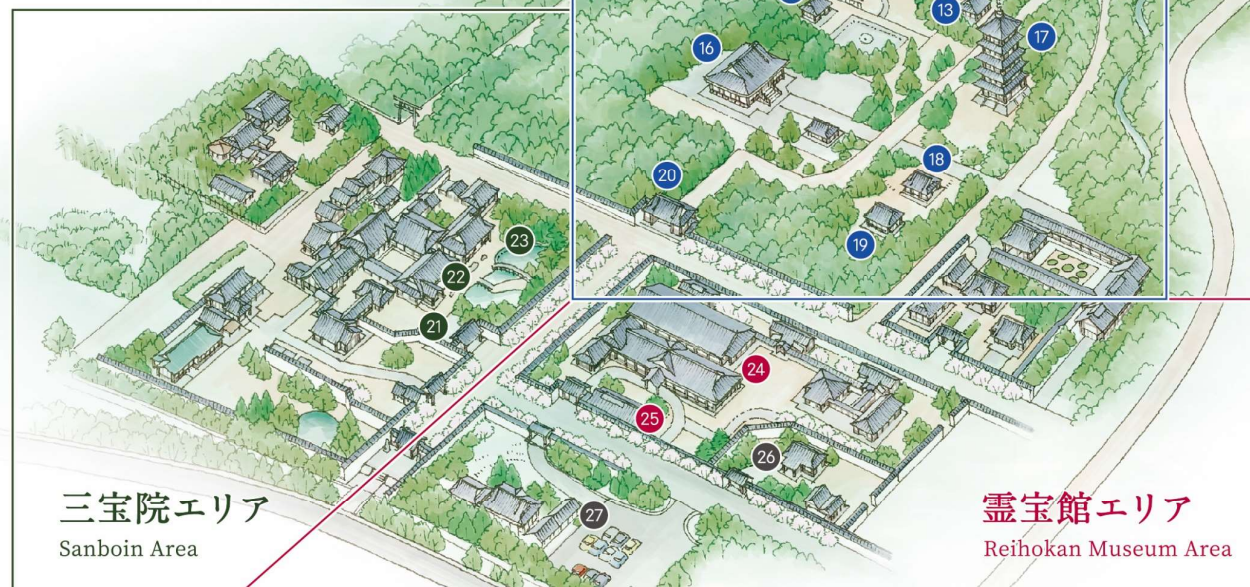
世界文化遺産 京都 醍醐寺

醍醐寺は874年に開創され、上醍醐と下醍醐の約200万坪の広大な敷地に、京都府内で最古の木造建築の五重塔など国宝75,537点（日本一の国宝点数）をはじめ仏像、文書、絵画など古代、中世以来の貴重な寺宝は約15万点にも及びます。本坊的な存在の三宝院は、国宝に指定されている表書院をはじめ建物の大半が国の重要文化財に指定されており、三宝院庭園は、慶長3年(1598)に豊臣秀吉公が「醍醐の花見」に際して自ら基本設計をした庭であり、今も桃山時代の華やかな雰囲気を与えています。

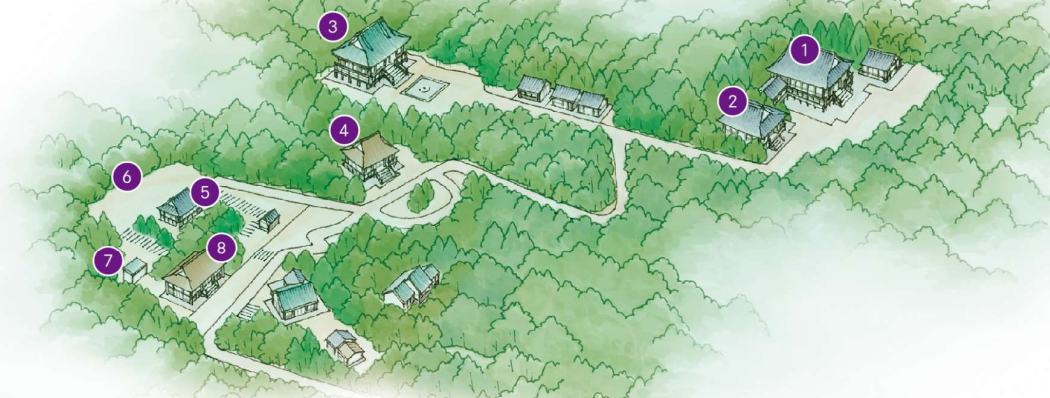


境内案内図

GUIDE MAP OF DAIGOJI COMPLEX



上醍醐エリア Kami-Daigo Area



伽藍エリア Garan Area



- | | | | | | |
|-------------|-------------|----|---------------|--------------------|--------------------------------|
| 上
醍
醐 | 1 | 重 | 開山堂 | Kaisando | |
| | 2 | 重 | 如意輪堂 | Nyoirindo | |
| | 3 | | 五大堂 | Godaido | |
| | 4 | 国 | 薬師堂 | Yakushido | |
| | 5 | | 醍醐水 | Daigo-Sui | |
| | 6 | | 准胝堂跡 | Junteido | |
| | 7 | | 清瀧宮本殿 | Seiryugu Honden | |
| | 8 | 国 | 清瀧宮拝殿 | Seiryugu Haiden | |
| | 9 | | 成身院(女人堂) | Joshinin(Nyonindo) | |
| 伽
藍 | 10 | | 寿庵(レストラン) | Juan(Restaurant) | |
| | 11 | | 弁天堂 | Bentendo | |
| | 12 | | 観音堂(西国第十一番礼所) | Kannondo | |
| | 13 | | 祖師堂 | Soshido | |
| | 14 | | 真如三昧耶堂 | Shinnyo-Sanmayado | |
| | 15 | | 不動堂・護摩道場 | Fudodo,Goma-dojō | |
| | 16 | 国 | 金堂 | Kondo | |
| | 17 | 国 | 五重塔 | Goju-no-to | |
| | 18 | | 清瀧宮拝殿 | Seiryugu Haiden | |
| | 19 | 重 | 清瀧宮本殿 | Seiryugu Honden | |
| 三
宝
院 | 20 | | 西大門(仁王門) | Saidaimon(Niomon) | |
| | 21 | 国 | 唐門 | Karamon | |
| | 22 | 国 | 表書院 | Omote-Shoin | |
| | 23 | | 庭園 | Garden | |
| | 霊
宝
館 | 24 | | 霊宝館 | Reihoan(Museum) |
| | | 25 | | ル・クロスルスリジェ(カフェ) | Le Clos Sous le cerisier(Cafe) |
| | | 26 | | 報恩院 | Houonin |
| | | 27 | | 雨月茶屋(レストラン) | Ugetsu-Chaya(Restaurant) |

国 … 国宝 重 … 重要文化財

メイン会場世界文化遺産醍醐寺を通じてつなげる“万博”と“京都と日本”

上醍醐エリア Kami-Daigo Area

① 開山堂 Kaisando



重文

② 如意輪堂 Nyoirindo



重文

③ 五大堂 Godaido



④ 薬師堂 Yakushido



国宝

⑤ 醍醐水 Daigo-sui



⑥ 准胝堂跡 Junteido



⑦ 清瀧宮本殿 Seiryugu Honden



⑧ 清瀧宮拝殿 Seiryugu Haiden



国宝

伽藍エリア Garan Area

⑧ 清瀧宮拝殿 Seiryugu Haiden



国宝

⑨ 成身院(女人堂) Joshinin(Nyonindo)



⑩ 寿庵(レストラン) Juan(Restaurant)



⑪ 弁天堂 Bentendo



⑫ 観音堂(西国第十一番札所) Kannondo



⑬ 祖師堂 Soshido



⑭ 真如三昧耶堂 Shinnyo-Sanmayado



メイン会場世界文化遺産醍醐寺を通じてつなげる“万博”と“京都と日本”

伽藍エリア Garan Area

15 不動堂・護摩道場 Fudodo, Goma-dojo



16 金堂 Kondo



国宝

17 五重塔 Goju-no-to



国宝

18 清瀧宮拜殿 Seiryugu Haiden



19 清瀧宮本殿 Seiryugu Honden

重文



三宝院エリア Sanboin Area

20 西大門(仁王門) Saidaimon(Niomon)



21 唐門 Karamon



国宝

22 表書院 Omote-Shoin



国宝



霊宝館エリア Reihokan Museum Area

23 庭園 Garden



24 霊宝館 Reihokan (Museum)



25 ル・クロスウルスリジェ(カフェ) Le Clos Sous le cerisier (Cafe)



26 報恩院 Houonin



27 雨月茶屋(レストラン) Ugetsu-Chaya (Restaurant)



日本国際芸術祭の想定スケジュール

2023年9月1日(金)～10月15日(日)：

文化庁が移転する“文化首都” 京都で第1回開催

メイン会場は世界文化遺産 京都 醍醐寺

京都の画廊、工房、企業ショールーム、大学、研究所、美術館、寺社仏閣、
工場(オープンファクトリー)等と連携

大阪など京都以外も繋ぐ

2024年度 ： 京都で第2回開催、関西エリアも繋ぐ

2025年度 ： 日本国際博覧会会場での企画と、京都での大規模開催

2026年度以降 ： 京都を本拠地に継続開催、関西エリアをはじめ他地域も繋ぐ

※開催規模が大きくなるにつれてキュレーター制度（エリアごと、テーマごと）等を検討